

国立歴史民俗博物館と特別支援学校（知的）の連携

千葉県立矢切特別支援学校 鳥井 圭子

1、高等部第2学年・美術

2、(1) 単元名「いとをかし！絵巻をつくろう」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

この単元は、「特別支援学校高等部学習指導要領」の美術科に示された1段階の目標イ「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする」とA表現の(イ)「対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること」、B鑑賞の(ア)「美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること」を踏まえ、生徒の造形的な見方・考え方を働かせて、美的体験を深め、日本文化と深く関わる資質・能力を育成できるよう設定した。この単元では美術作品に関する鑑賞だけでなく、美術の働きや美術文化に関する鑑賞に重点をおいた。

②単元の目標

- ・作品の造形的なよさや美しさ、表現の工夫などを知る。
- ・主題を発想し構想を練ったり、作品の見方や感じ方を広げたりする。
- ・表現や鑑賞の学習活動に進んで取り組む。

(3) 博物館との関連

①活用方法 非来館型

②活用資料 国立歴史民俗博物館公式サイト内「歴博画像データベース」 「紙本白描隆房卿艶詞絵巻」



(4) 指導観

この單元では、私たちをつつみこむ美しい日本の自然を見つめ、自分が表現したい主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練る。また、正解のない美術作品を鑑賞し、日本美術のよさや特徴について感じ取り、様々な表現方法を試しながらその効果を生かし、「いとをかし！絵巻」を制作する。完成した生徒同士の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

これまでの美術の授業では、表現の活動が重視され、鑑賞については「身の回りのもの」や「自分たちの作品」を見ることを中心に行ってきた。高等部「B鑑賞」の内容として第一段階、第二段階とも「美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの活動を通して」、また共通事項として「A表現及びB鑑賞の指導を通して、資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る」こととされており、今回は、表現及び鑑賞の指導の両面から主体的・対話的で深い学びの実現を目的としたい。

学習指導要領解説では、「独自の文化を生み出してきた日本の文化のよさを十分に味わうこと」「美術として文化遺産そのものや、その背景となる日本文化の特質への関心を高め、それらが現代においても大きな意味をもつことに気付かせるようにすることが大切である」とされている。そのため、ここでは

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、
紫だちたる雲のほそくたなびきたる。
夏は夜。月のころはさらなり、
秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、
冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、
〔枕草子 春はあけぼの〕の段から）
水晶の数珠。藤の花。梅の花に雪降りたる。
〔枕草子 あてなるもの〕の段から）
『春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえて冷しかりけり
道元
雲を出でて我にともなふ冬の月風や身にしむ雪や冷たさ
明恵上人
「雪・月・花」といふ四季の移りの折りの美を現はす言葉は、日本に
おいては山川草木 森羅万象自然のすべてそして人間感情をも含めて
の美を現はす言葉とするのが伝統なのであります。』（一九六八年、
ノーベル文学賞受賞記念公演 川端康成「日本の美しい私」より）

などから象徴されるような「美しい日本」の文学や自然、大好きな人への気持ちなど八百年経っても変わらないものがあふれている芸術作品を深く鑑賞することによって、現代を生きる生徒たちが八百年前の世界へ想いをはせたり、自然を大切に思う心を持ったりして、それを元に絵巻に表現していく。

指導計画の作成と内容の取り扱いについては、オ「B鑑賞の指導にあたっては生徒や学校の実態に応じて、地域の美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりすること」とあることから、この単元では、国立歴史民俗博物館に所蔵されている文化財を取り扱うこととする。国立歴史民俗博物館には、豊富な教育資源が所蔵されており、生徒の学びの場や内容を広げ、歴史や文化に対する理解を一層深めることができ、実体験を通し、学習効果を高めることができる。また、知的障害のある生徒たちにも博物館を生涯に渡り活用し、学び続けるための場所とできるようにしていきたいと考えている。そのため、取り扱う教材を工夫し、生徒が分かりやすく興味のあるものになるようにする。本時で取り扱う「隆房卿艶詞絵巻」は、八百年前も変わらない自然の全て、そして人間感情も含む美を感じられる作品である。また、連続的に構成し中途に芦手書を入れ説明を補うなど日本的な技巧を凝らしている。そして白描物語絵巻の数少ない貴重な作品である。社会で平安時代の文化を学習したり、「平家物語」のアニメーションを見て、時代背景や人物の心情を考えたりすることができるようにした。ここでは、作品に関する鑑賞だけでなく、美術の働きや日本の文化についても興味や関心がもてるように美術作品にまつわる歴史や固有の情報を教えるだけでなく、作品に対する自分の見方、感じ方や考え方を友達と対話を通してそれぞれの見方や感じ方を深めたり広げたりしたい自分にはない新たな見方や感じ方に気づかせたい。生徒の学びの場や内容を広げ、歴史や文化に対する理解を一層深めていく。

また、ここで行う対話鑑賞は、「主体的・対話的な深い学び」や、「教科横断的な学び」に適応した方法である。B鑑賞の「心情や表現の意図と工夫などについて考える」ことは、「心情や表現の意図と工夫などは、正解があるわけではないので、作者が表している内容や形、色彩、材料、表現方法などから、生徒が自分の感覚や言葉で感じ取れるよう、助言や指導をすることが大切である。」とされている。また「見方や感じ方を広げるため」鑑賞の視点を豊かにし、見方や感じ方を広げ、その際、生徒が自分の感じたことや気付いたこと、考えたことなどについて、対話などを通してお互いに説明し合う中で、自分にはない新たな見方や感じ方に気づかせ、自分らしい表現を選択し、身につけられるようにしていく。

表現においても鑑賞においても、造形的な見方・考え方を働かせることを重視し、鑑賞と表現が関連し合いながら繰り返されるように指導を工夫し、見方や感じ方を深められるようにしたい。

3、指導計画

時数	期日	主な学習活動・内容
1	11月10日(木)	「いとをかし!絵巻」の主題を考えよう 「平家物語」の世界
2	11月17日(木)	いろいろな絵巻や王朝文化を味わおう
3	11月22日(火)	紙本「白描隆房卿艶詞絵巻」を鑑賞しよう【本時】
4	11月25日(木)	紙本「白描隆房卿艶詞絵巻」を鑑賞しよう
5	12月1日(木)	「いとをかし!絵巻」の制作
6	12月8日(木)	「いとをかし!絵巻」の制作
7	12月15日(木)	「意図をかし!絵巻」の制作
8	1月13日(木)	それぞれの作品の鑑賞

4、実践の概要

(1) 本時の目標

- ・表現の仕方や形や色彩などの造形的な特徴や特色を知る。
- ・作者の心情や意図と表現の工夫などを知り、感想や気付いたことを書いたり、話したりする。
- ・見方や感じ方を深める鑑賞の学習に進んで取り組む。

(2) 目標・手立て(A~Fは、個々の生徒)

	単元の目標	学習の様子	本時の個人目標	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したいものを発想し、構想を練ったり、見方や感じ方を広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに時間がかかるが、表現の仕方をアドバイスすることにより、ゆっくり制作に取り組むことができる。 ・自分の感じたことや考えたことをまとめ話すことができ、友達の見聞きを聞き、理解したり共感したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、気付いたことや感じたことを書いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたこと感じたことを書くことができたなら賞賛して自信を持って発表できるようにする。 ・作品の大きさの体感や表現の工夫が読み取れるように、教材を工夫する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて工夫して表現の学習活動に進んで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可愛い女の子の絵をみたり、描いたりしている。 ・自分の興味のあるものに積極的に発言したり、取り組んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、気付いたことや感じたことを書いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注目するポイントを絞り考えられるよう言葉がけをする。 ・現代のイラストを提示し違いがわかるようにする。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したいものを考えたり、作品の見方や感じ方を広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに時間がかかるが、表現の仕方をアドバイスすることにより、自分の考えをもとに進んで制作に取り組むことができる。 ・ゆっくりではあるが、自分で考え、自分の意見を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、気付いたことや感じたことを書いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言することに自信がないときには、間違いはないことを伝え、発表を促し、待つ。 ・作品の大きさの体感や表現の工夫が読み取れるように、教材を工夫する。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したいものを選択したり、作品の見方や感じ方を広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を書くことに時間がかかるが、ポイントを絞って伝えることで、キーワードや文章で書くことができる。 ・表現したいもののキーワードを教師が提示し、実際の写真などから自分で選んで発想したり、構想を練ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、気付いたことや感じたことを選択肢の中から選んだり文章で書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持てるよう選択肢を提示したり、付箋に書いたりするよう促す。 ・発表する順番やペアになる生徒をあらかじめ決めておき、どのように考えを表現するか発表の仕方を教師とあらかじめ考えておく。 ・作品の大きさの体感や表現

		<ul style="list-style-type: none"> ・発語はないので、選択肢から選んだり、友達の意見を聞いて、自分の考えを簡単な文章で表したりするようになった。 		<p>の工夫が読み取れるように教材を工夫する。</p>
E	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特徴を基に、想像を広げたり、進んで表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からイラストを描くことが好きで、進んで表現活動に取り組むことができる。 ・質問の意味を理解することに時間がかかるが、具体的に示したり、絵で示したりすることで答えられる。 ・人の意見を理解するのに時間がかかるが、わかりやすい言葉で言い換えたり吹き出しを書いたりしてわかるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、自分の考えを書いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の意味を理解するのに時間がかかる時には、質問を繰り返したり、違う言葉で言い換えたりイラストで示したりする。 ・友達の意見を聞いてわかるよう説明の補足をする。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や鑑賞の学習活動に進んで取り組み、自分の表現したいものを工夫して表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や鑑賞の学習に進んで取り組むことができる。 ・分からないことや興味のあることは、教師に質問したり、タブレット端末を使って調べたりして、自分の意見を持って発言することができる。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えに照らし合わせ、発言することができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の鑑賞を通して、作品の特色が分かり、自分の考えを書いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意して自分の意見をまとめられるようにする。 ・友達の意見を自分の意見に照らし合わせて解釈を深められるようにメモを取ったり、分からないことは質問したりするように促す。

(3) 展開

時配	活動内容	指導及び支援上の留意点	教材・教具
11:00 (5分) 導入	<ul style="list-style-type: none"> ○始まりの挨拶をする。 ○本時の学習内容について知る。 ○「隆房卿艶詞絵巻」を鑑賞することを知り、授業の流れを知る。 ○初めに絵巻の全体を示し、隆房と小督の悲恋について描かれた絵巻について鑑賞することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正すように伝える。 ・絵巻を模したものに注目させる。 ・物語の内容を説明し、本時、鑑賞する第一段の場面を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵巻 ・「紙本白描 隆房卿艶詞絵巻」の拡大コピー

<p>11:05 (40分) 展開</p>	<p>○どんな気持ちかを考える。 ・男性と女性はどんな表情をしているか確認する。 ・絵と同じポーズをとり、何と言っているかせりふを考えたり、どんな気持ちかを考えたりする。 ・せりふや気持ちを吹き出しに書いて、実演してみる。 ○タブレット端末を使って、友達が色をつけた画像を順番に見る。 ・色をつけたポイントや感想を発表する。 ○この作品は、なぜ、白描で描かれたのかを考える。 ・違いについて考え、自分の意見を発表する。</p>	<p>・第一段の状況をわかりやすく、簡単に説明し、人物の気持ちを考えられるようにする。 ・Dの生徒には、選択肢を提示して選べるようにしておく。 ・間違えはないので、みんなに聞こえるような声で実演するよう伝える。 ・あらかじめ、色をつけておいたものを順番に見せる。 ・色をつけてみて、白描との印象の違いに気付き、比較できるように画面を並べて提示する。 ・造形的なよさに気付き、自分なりの見方や感じ方を広げて発表できるようにする。 ・生徒が自分の感覚で感じ取れるようキーワードを与える。</p>	<p>・ワークシート ・月の写真と桜の花 ・タブレット端末 ・大型テレビ</p>
<p>11:45 (5分) まとめ</p>	<p>○まとめ ・表現の特徴やいろいろな表現があることを知る。 ・次回の活動を聞く。 ○終わりの挨拶をする。</p>	<p>・作品の特色をまとめる。 ・自分で考えたり、発表したりできたことを賞賛する。 ・次回から絵巻の制作に取り組むことを伝える。 ・姿勢を正すように伝える。</p>	<p>・ワークシート</p>

(4) 評価

評価	
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方や形や色彩などの造形的な特徴や特色を知ることができたか。 ・作者の心情や意図と表現の工夫などを知り、感想や気付いたことなどを書いたり、話したりすることができたか。 ・見方や感じ方を深める鑑賞の学習に進んで取り組むことができたか。
教師	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びが引き出せたか。 ・生徒一人一人が考え、意見を引き出すことができたか。 ・美術鑑賞に興味を持たせることができたか。

【対話鑑賞の様子】 見つけたことを発表してみよう

- Aさん「はしっこが茶色くなっている」「さくらの木のよこ 土がもり上がっている」
「うすい線が一直線になってる」「星は平和のしるしになっている」
- Bさん「月が、ささやきだな」「星が、かざったから」「月が見たから」
- Cさん「はしっこが茶色くなっている」「さくらの木がくきとさくらのつぼみの芽がでてる」
「つきが夕やけになってる」「けしきは夕やけみたいな感じだと思いました」
「星が何こもある」「女性の髪の毛が地面についててきれいでかわいい」
「(男性の)かみのけの形がおかしい」
- Dさん「さくらの木のつぼみがある」「はしらがある」「ほしがある」
- Eさん「星が黒くぬられている」「橋のところがうすくなっている」「着物がうすく描かれている」
「着物がすみでぬられている」「髪の毛がすみでぬられている」「桜の絵がうすくなっている」
「桜の木の根っこが濃くなっている」「木の絵がうすくなっている」「星の形が六角形」
- Fさん「さくらの木の下に土の部分が見えた」「根っこの部分が少し見えた」「床が木の板に見えた」
「女の方の着物の一部の部分に黒いカラーの色が顔の下にあった？」
「床の柱の下部分に段差が見えた」「絵の上下部分が茶色になっている」
「着物の床あたりの部分に着物の位置より外に出ていた」
「上の床あたり近くにほんのわずかなところにはしらが見えた」
「男の方が手を口のあたりにおさえている」「女の方が手に何かを持って外を見ている」
「絵の一部分に色がかなり濃くなっているところがあった」
「建物の屋根の上部分が床と同じこうぞうの書き方をしていた。にている。」
「さくらの書き方として積み重なっているように見えた」

【対話鑑賞の様子】 ポーズをとってみてどう感じた？ 何と言っているか、考えているのかな？

- Aさん「月を見てしあわせだったとも思う」
- Bさん「新幹線にのってみたい」「ディズニーランドに行きたい」「結婚したいと思います」
- Cさん「かっこいい」

Dさん「平和な時代が続きますように」「月を見てこの状態が続いてほしいと思っている」
Eさん「心臓がドキドキする気持ち」「楽しい」「嬉しい」「イケメン」
Fさん「ああ、今夜はいいお月様であるなあ」「うむ、きっと神様も見つめていると思うだろう」
「2人との時間はとても楽しいと感じる。しかし、この立場としてどう思っている」
「もうすぐいかななくてはならないか。小督ことを恋している」

【対話鑑賞の様子】 この作品はなぜ、白描で描かれたのかを考えてみよう



【それぞれ、タブレット端末を使って彩色をした】

Aさん「明るい色でかいたらと線よりも色が目立つと思うから」
「すみでかくことによって形や絵が見やすくなるから」
Bさん「影の色だから」「夜空が暗くて見えなかった。」
Cさん「昔のたて物と今のたてものはちがうからです」
「昔のけしきの色と今のけしきの色はちがうだなと思いました。」
「女性のかみのけがじめんについててきれいかわいい」
「昔のまきものやつだからもじ昔の字だから」
Dさん「しろくろのほうがいいとおもう せんをきれいにみえるから」
「こまかいひょうげんをすみでしたかった」
「平家がほろびてしまうのをあんじしている」

Eさん「口紅の色が目立つ」「周りのりんかくが目立つ」

Fさん「細かく書かないといけなかった理由がある」「何かを伝えたかったのか」

「すみ一色で書くのには、その時代には書くものが限られているから」

「黒色以外の色の事を知らなかった。」「どこから見て書いたか」

「この絵には何か関係がある」「昔の人達はすみかぼくじゅうあたりしかなかった」

「こういう時代があった事を伝えたかった」「ふで1つで書いたんじゃないか」

「すみをなぜ、うすく書いたか」「なぜか細い目や口、はなで書いていたのか」

「実際に見た光景を絵に表しているのか」

5、成果と課題

- ・国立歴史民俗博物館公式サイト内「歴博画像データベース」の画像を拡大印刷して提示したり、絵巻を模したものを作って見せたりすることにより、生徒一人一人が主体的に見方や感じ方を深めることができた。また、付箋を用いて、さまざまな意見を発表することができ、本校における「対話」の形なのではないかとの意見があった。
- ・生徒は、画像をよくみて、色をつけたり、自分なりの考えを持ったりすることができ、みんなの前で発表することができた。
- ・校内の研究授業を行い、C課程での授業を実践するための授業計画を考えたのだが、題材が難しいのではないかと、鑑賞の授業を行なったことがない、など否定的なものが多かった。課題として誰でもわかりやすい教材作りと、博学連携を特別支援学校でも実践できることをもっと広めていきたい。

【参考文献】

- ・枕草子 いとめでたし！天野慶著 朝日学生新聞社
- ・ビギナーズクラシックス 日本の古典 平家物語 角川書店編
- ・美しい日本の私 川端康成 角川文庫
- ・マンガでわかる「日本絵画」の見かた 監修矢島新 誠文堂新光社
- ・歴史系総合誌『歴博』第198号（2016.9）連載「歴史の証人一写真による収蔵品紹介」
- ・企画展「文字がつなぐ」図録（2014年）216頁NO.5-15
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・ループリックで変わる美術鑑賞学習 新関伸也・松岡宏明 三元社